

第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(計画期間 令和3年度～令和7年度)

総合戦略に基づく施策の
令和4年度取組状況等について

1. 西尾市の人口動態

1. 推計人口

令和4年10月1日現在の西尾市の人口は168,209人で、1年前と比べて382人減少した。

	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	前年比
総人口	165,298	167,990	168,743	169,352	169,592	169,984	169,046	168,591	168,209	▲ 382
0～14歳	24,617	24,236	24,188	24,222	23,881	23,559	23,652	23,416	23,071	▲ 345
15～64歳	105,941	103,106	102,913	102,796	102,616	101,659	101,835	101,266	101,137	▲ 129
65歳以上	34,561	40,211	41,205	41,920	43,050	43,463	43,050	43,832	43,930	98
100歳以上	-	-	-	-	-	-	-	77	71	▲ 6
不詳	179	437	437	414	437	437	437	-	-	-

出典：H22年とH27とR2年は国勢調査（確定値）。R3年以降はR2年国勢調査確定値を基準値とする推計人口
（愛知県人口動向調査）

R3年以降については、不詳を補完した値となっています。

2. 自然動態

令和4年の自然動態は、出生児数が1,143人、死亡者数が1,945人となり、802人の減少となった。出生数は、前年より80人減少し、死亡数は195人増加した。

		H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	前年比
自然動態	出生	1,423	1,470	1,412	1,341	1,328	1,252	1,223	1,143	▲ 80
	死亡	1,621	1,555	1,743	1,658	1,668	1,634	1,750	1,945	195
	自然増減	▲ 198	▲ 85	▲ 331	▲ 317	▲ 340	▲ 382	▲ 527	▲ 802	▲ 275
	…①									

出典：愛知県人口動向調査（愛知県統計課）

3. 社会動態

令和4年の社会動態は、転入者数が6,853人、転出者数が6,434人などとなり、420人の増加となった。

令和4年の転入者数は、前年より891人増加した。

令和4年の転出者数は、前年より529人減少した。

		H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	前年比
社会動態	転入	5,970	6,619	6,842	7,352	8,025	5,795	5,962	6,853	891
	転出	5,556	5,907	6,031	6,729	7,253	6,262	5,905	6,434	529
	その他増減	306	126	129	▲ 66	▲ 40	▲ 17	15	1	▲ 14
	社会増減	720	838	940	557	732	▲ 484	72	420	348
	…②									

出典：愛知県人口動向調査（愛知県統計課）

自然増減①と社会増減②でみる令和4年の人口増減は382人の減少となった。

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	前年比
人口増減…①+②	522	753	609	240	392	▲ 866	▲ 455	▲ 382	73

2. 施策の取組状況

【基本目標1】『まち』

地域の魅力を磨き、快適な暮らしができ、にぎわいのあるまちを形成する

多様な交流が生まれるにぎわいに満ち、まちに誇りや愛着を感じながらいつまでも安心して暮らせるまちをつくりまします。

＜主な事業の令和4年度取組状況及び今後の展望等＞

【にしおマラソン】

第1回大会の反省をふまえ、コースの再検討や大会運営全般の見直しをするため、令和4年度開催はせず、令和5年度開催に向けた準備を行った。第2回大会は令和6年1月21日（日）に実施。フルマラソンの部は7,000人、5キロの部は600人、2キロの部は400人の定員を募集。また、コースの見直しや特産品のPR、協賛金獲得など、市が一体となって盛り上がる大会運営を目指す。

【にしお健康ツーリズム】

健康経営に取り組む企業にヒアリングを実施し、前年度実施したモニターツアーに西尾らしいプログラムを追加するなどブラッシュアップを行った。令和5年度以降もプログラムのブラッシュアップを行い、にしお健康ツーリズムの浸透を図る。

【eスポーツ事業】

eスポーツを活用した、多文化交流プログラム、健康プログラム、観光交流プログラム等の実施及びeスポーツイベントを開催した。令和5年度以降も、各種プログラムとeスポーツイベントを継続させ、スポーツツーリズムを推進する。

【観光資源魅力創造事業】

西尾城プロジェクションマッピングを実施し、「どうする家康」に関連したものや岩瀬文庫に所蔵する絵巻を映像に流し市のPRを行った。令和5年度もプロジェクションマッピングを実施し、さらなる誘客を図るとともに映像を通して市の観光資源のPRを行う。

国の令和3年度補正予算（地方創生拠点整備交付金）を活用し、デンソーエアーリービーズの大会を実施する西尾市総合体育館のメインアリーナに移動観覧708席を令和4年度に増設した。今後は、卓球Tリーグなど、他のプロスポーツの誘致も積極的に行っていく。

【ふるさと応援寄附金制度】

5,000円以上寄附された市外の方へ一色産うなぎ、西尾の抹茶、えびせんべい等を始めとする返礼品を贈呈し、特産品のPRを図った。特産品は市内事業者から募集を行い150事業者から約630品目提供いただいた。

令和4年度の寄附実績は、128,983件 2,135,521,701円であった。従来から行っているポータルサイトへの広告掲載に加え、返礼品のブラッシュアップ業務

や楽天ポータルサイトの運營業務の外部委託の成果により、大幅な寄附額の増加となった。

今後も新たな返礼品の開拓、メルマガ配信、旅先納税の導入や協力事業者様への積極的な訪問活動など、寄附額の増額に繋がる取組を検討していく。

【津波避難施設整備事業】

令和4年度は一色町千間地区及び吉良町吉田地区の2箇所に津波避難タワーの整備が完了。令和8年度末までに市内に計10基の津波避難タワーを整備していく。津波一時待避所不足地域にある消防署吉良分署を津波一時待避所に指定するため、屋上にフェンス等の整備が完了。令和5年度は、離島保育園の屋上にフェンス等を設置し、津波一時待避所に指定するための実施設計業務を行い、令和6年度に整備を進める。

【危険箇所のLINE通報機能追加事業】

LINE公式アカウント管理ツール「KANAMETO」の通報機能と庁内GISとの連携ツールの検討を行った。庁内GISでの通報項目の管理方法などの機能を確認した。今後は令和5年9月頃の導入に向けて関係各課及びベンダーとの調整を行う。(デジタル田園都市国家構想交付金を活用予定)

【河川防災情報整備事業】

令和4年度に実施計画を策定し、令和5年度にデジタル田園都市国家構想交付金事業として整備予定(令和5年度完了予定)。

【行政手続きのスマート化事業】

令和4年9月1日から「スマート申請」の運用を開始し、月平均70件ほどの申請を受け付けている。

今後は更なる利用の増加を図るため、対象申請の拡充とPR強化に取り組む。

【令和4年度実績】月平均：69件、申請合計：486件(令和4年9月1日～令和5年3月31日)

【書かない窓口システム導入事業】

書かない窓口を実現するサービスを検討し、マイナンバーカードを活用した、証明書交付、申請書作成支援及び手続案内するシステムを選定予定とした。

令和6年2月のサービス開始を目指し、担当課及びベンダーと現在調整中。(デジタル田園都市国家構想交付金を活用予定)

政策目標指標

各年3月31日時点

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
交流人口 (観光入込 客数)	352万人 (R1)	450万人 (R5)	264万人	349万人

K P I（重要業績評価指標）

各年3月31日時点

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
佐久島交流人口	106,000人 (R1)	120,000人 (R7)	81,777人	79,816人
成人の週1回以上のスポーツ実施の割合	46.7% (R2)	50% (R6)	—	52.1%
にしおマラソン参加者	4,259人 (R1)(※1)	7,000人 (R7)	4,190人 (オンラインイベントエントリー含む)	0人 (開催せず)
国内トップレベルの大会開催数	2大会 (R1)	4大会 (R7)	3大会	0回
観光用Wi-Fiアクセスポイント数	56か所 (R1)	70か所 (R7)	48か所	41か所
外国人宿泊者数 (吉良温泉)	18,428人 (R1)	20,000人 (R7)	219人	638人
ワーケーションプラン利用人数	0人/年 (R3)	10人/年 (R7)	1人×2日 2人	0人
観光協会ホームページアクセス数	592,732件 (R1)	800,000件 (R7)	632,030件	661,913件
名鉄西尾・蒲郡線年間利用者数	3,324,568人 (R1)	3,494,000人 (R7)	2,787,326人	2,946,952人
コミュニティバス年間利用者数	119,198人 (R1)	180,000人 (R7)	186,111人 (内いっちゃん2,745人)	213,776人 (内いっちゃん3,474人)
いこまいか一年間利用者数	2,254人 (R1)	2,300人 (R7)	5,613人	6,341人
ふれんどバス年間利用者数	304,975人 (H30.10~R1.9)	305,000人 (R6.10~R7.9)	247,915人	255,499人
名鉄東部交通バス年間利用者数 (※2)	367,759人 (H30.10~R1.9)	368,000人 (R6.10~R7.9)	320,860人	329,381人
佐久島渡船年間利用者数	251,000人(R1)	260,000人 (R7)	203,886人	202,614人

(※1) 令和元年度の一色マラソン参加者数 (※2) R2.4の一部廃止路線除く

【基本目標2】『ひと』

次代を担う子どもの育成と、多様な人材の活躍を推進する

若い世代が結婚や出産に希望をもち、子育てを楽しめるまちをつくとともに、多様な人材が活躍できるまちをつくりまします。

＜主な事業の令和4年度取組状況及び今後の展望等＞

【結婚支援事業】

令和2年度に、三河湾リゾートリンクスと結婚支援事業に関する覚書を締結し、リンクスが企画する婚活イベントについて、市が広報やホームページでイベントの告知をするという共催の体制を構築した。令和4年度は新型コロナウイルスの影響により連携事業の実績はないが、今後は状況に応じて連携の再開を検討していく。

【結婚新生活支援事業】

新婚生活への支援及び市内への移住・定住を促すため、新婚世帯の新築住宅取得費用を最大30万円まで補助する制度を、令和3年4月1日から施行した。令和3年度については、対象要件に該当する世帯がなく実績がなかったことから、令和4年度からは下記の通り要件の見直しを行った。

- (1) 世帯要件を「婚姻」のみから「パートナーシップ宣誓を含む」に変更。
- (2) 対象期間を「婚姻日から1年以内に契約」から「婚姻日から2年以内または婚姻日から遡って1年以内に契約」に変更。
- (3) 所得要件を「夫婦合算で400万円未満」から「夫婦合算で500万円未満」に変更。

上記見直しにより、令和4年度は満枠となる10件の交付実績があり、問合せも多いことから、今後も現在の要件のまま運用していく。

【出産祝い金支援事業】

次世代を担う子どもの誕生を祝福し、人口増加及び子育て支援の推進を図るため、すこやか祝い金を支給した。令和4年度の実績は、1,107件、50,010千円。令和5年度からは出産・子育て応援給付金として支給。

【子育て世代包括支援センター事業】

妊娠期から就学前までの子どもとその保護者に対して、さまざまな相談に切れ目なく対応している。また、関係機関との連絡会議を定期的に行い、情報共有を図りきめ細かい支援を実施。

連絡会議 12回/年 検討件数 延べ76件

【子ども医療費支給事業】

子どもの通院については15歳の年度末まで、入院については18歳の年度末まで保険診療による医療費の自己負担分を助成した。

【保育園・幼稚園におけるICT化推進】

各園2台のタブレットに加え、各クラス1台ずつタブレットを導入した。園児の登降園管理システムに加え、連絡帳機能の活用を始め、業務の効率化も進めている。

【放課後児童クラブ運営・充実】

令和4年度冬休みの申請から電子申請による受付を実施した。令和5年度入会申請も引き続き電子申請による受付を行ったところ、全体の約2割が紙面から電子へ変更となり、保護者の利便の向上が図られた。

【子ども食堂運営費補助】

子ども食堂を運営する団体を支援するため、運営費補助金を交付した。

令和4年度の交付団体数は5団体、交付総額は60万円。

【寺子屋にしお推進事業】

取組状況：小学1年生から3年生までの児童を対象として、ふれあいセンター、寺院などの施設を利用して26小学校区中14小学校区（12教室）で実施し、全教室で年間706日を開催、延べ7,741人の児童が参加した。

今後の展開：ふれあいセンター、寺院等の地域の施設を活用し、子どもたちの安心・安全な居場所を設け、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する。

【学校におけるICT環境の整備と活用】

ICT環境の活用における学校での状況報告を受けるとともに、それに伴う改善点・問題点の確認を行い、必要となる整備を実施した。

【学校と家庭をつなぐ連絡システムの導入】

令和4年度より学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム「すぐーる」を導入・運用をしている。緊急時の連絡だけでなく、日々の欠席連絡にも対応をし、連絡システムとして効果的な運用をすることができている。

【生涯学習拠点施設整備事業】

取組状況：中央ふれあいセンターとにしお市民活動センター・アクティにしおの機能を統合し、全世代に対する多様な学びの場としての生涯学習センター（仮称）を建設するため、実施要領を作成し、応募者の募集を行った。

今後の展開：1次・2次審査により優先交渉権者を決定し、令和5～6年で基本・実施設計、令和7～8年で建設工事を行い、令和9年4月の供用開始を予定。

政策目標指標

各年1月1日～12月31日

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
年間出生数 【住民基本台 帳登録】(※)	1,367人 (H30)	1,400人 (R7)	1,218人	1,102人

(※) 外国人の出生を含む

KPI (重要業績評価指標)

各年3月31日時点

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
合計特殊出生率	1.54 (H26～H30 平均値)	1.58 (R7)	1.43 (R2)	1.43 (R2)
出産祝い金の受 給者数	1,286人 (R1)	1,400人 (R7)	1,216人	1,107人
放課後児童クラ ブの待機児童数	32人 (R1)	0人 (R7)	0人	0人
図書館貸出カー ドの登録率(18歳 以下の子ども)	40% (R1)	60% (R7)	54.2% (人口は R4.4.1 現在)	55.8% (人口は R5.4.1 現在)
参加人数(マル チ・カルチャー・ キャンプ in 佐久 島)	0人 (R2)	50人 (R7)	0人	0人
寺子屋にしお開 設数	12教室 (R1)	13教室 (R7)	11教室	12教室

【基本目標3】『しごと』

地域の特色を生かした稼ぐ地域の形成と安心して働ける場を維持・拡大する

市内に十分な雇用の場があり誰もがいきがいを感じて働くことができるまちをつくります。

＜主な事業の令和4年度取組状況及び今後の展望等＞

【海外販路開拓事業】

タイのバンコクで行われた訪日旅行新フェア（FIT）に参加し、西尾の抹茶を点てる体験を通して、プロモーションを行った。お茶文化のあるタイでは、抹茶は大変人気である。令和5年度以降は、旅行客のPRとともに事業者に対してプロモーションを行う。

【新規就農者等支援事業】

就農直後の経営確立を支援するために令和4年度に経営開始した者には、経営開始資金として上限1,000万円（3/4補助）及び年間最大150万円を最長3年間、令和3年度以前の新規就農者に対し、最大5年間1人当たり150万円の支援をおこない、令和4年度は事業対象者15名に対し3,150万円を交付した。

【スマートアグリシティ西尾構想の推進】

JA西三河きゅうり部会で取り組んだスマート農業を応用した技術をいちごへ横展開し、省エネ化による農業経営の安定や新たな担い手へのICT技術を活用した技術継承を促進する。

【企業立地支援のための補助金等交付事業】

市内に工場等の新設又は増設をしようとする企業に対し、工場等建設奨励金（20社184,199千円）と企業再投資促進補助金（5社475,831千円）を交付した。

【企業立地プロモーション事業】

愛知県産業立地セミナーin大阪（7月）及び東京（11月）に西尾市の立地促進パンフレットを配置することで、関西圏、首都圏の企業に本市の企業立地をPRをした。

また、産業立地セミナーin西尾（1月）を開催し、市内外の企業に本市のPRをした。引き続き、地域経済の厚みづくり、地域に根ざした企業を増やすため、企業立地PRを推進していく。

【中心市街地活性化事業】

令和5年度末の「中心市街地活性化ビジョン」策定に向け、関係団体等との協議や市民アンケート等により素案を作成した。あわせて、ビジョン策定の一環として、市民や事業者等の活動の場として公共空間を開放する社会実験を実施し、中心市街地への来訪者・出店者ニーズの把握や、将来的なまちなかへの出店を検討している事業者の掘り起こしを進めた。

【デジタル格差解消事業】

ソフトバンクとの包括連携協定に基づき、各地域包括支援センターでスマホ教室を実施（14回）。県DXアドバイザーによるスマホ教室を各地域包括支援センターで実施（6回）。

取組状況：「シニアパソコン教室」や、誰でも参加可能な「生活に役立つアプリを学ぶ生涯学習講座」、子ども対象「プログラミン教室」などを開催した。

今後の展開：市民ニーズを把握し、時代にあったICT活用技術習得の場を提供できるよう、デジタル格差解消に向けた支援を行う。

政策目標指標

各年3月31日時点

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
製造業の従業者数（従業者4人以上の事業所） 【工業統計】	40,950人 (R1)	48,750人 (R7)	40,500人 (R2)	36,213人 (R3)

KPI（重要業績評価指標）

各年3月31日時点

指標	基準値	目標値	実績値	
	R1	R7	R3	R4
特産品による新商品開発数 (累計)	11件 (R1)	16件 (R7)	13件	13件
東京での物産展における西尾市の認知度	42% (R1)	50% (R7)	42% (R1)	56.3% (R4)
事業承継支援実績（累計）	15件 (R1)	27件 (R7)	10件	10件 (R3)
展示会出展数 (累計)	50件 (R1)	65件 (R7)	2件	2件
販路拡大の商談数（累計）	70件 (R1)	90件 (R7)	11件	11件
創業支援事業に基づく創業者数 (累計)	79人 (R1)	140人 (R7)	25人	25人 (R3)

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進交付金）実績一覧

事業名	事業概要	事業経費（円）	事業経費内訳（円）	指標	指標値	実績値 (4年3月末時点)	実施内容	事業評価	今後の方針
西尾の魅力発信によるモノづくり企業の競争力強化事業	本市の製造業の大部分を占める自動車関連産業で大変革期を迎えていることや、市内の中小企業の新卒の確保が非常に難しい状況となっていることなどから、変化に強い強靱な産業基盤を目指すことと、市内における十分な雇用の創出を図ることを目指して、「西尾の魅力発信によるモノづくり企業の競争力強化事業」を展開する。	5,871,000	展示会出展補助費 1,500,000 「産業立地セミナーin西尾」運営業務委託料 3,200,000 「ローカル就活ガイド」印刷費 1,171,000	人材マッチング件数 販路拡大の商談数 企業立地件数	10 10 5	26 15 6	①展示会出展補助 首都圏や関西圏で開催される大型展示会に市内事業者と共同出展する事業及び事業者が展示会に出展した際の費用の一部を補助する。 ②「産業立地セミナーin西尾」の開催 市内外の製造業を集めて、西尾市における工場立地の優位性や、立地後の支援制度等を紹介し、市内企業の留置と市外企業の誘致を促進する。 ③「ローカル就活ガイド」印刷 市内の企業の魅力をダイレクトに伝えるための冊子を作成した。	①6企業に対して行い、今後の販路拡大につながる内容となった。 ②カーボンニュートラルの最新動向や経営決断の礎理論を学ぶ内容で、将来を見据えた市内外の企業との関係性が構築された。 ③企業の魅力をコンパクトにまとめ、雇用の創出につながる魅力ある内容の冊子となった。	税収及び雇用の維持・拡大、地域産業の活性化を図るため、企業誘致・留置につながる本事業に継続して取り組んでいく。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進交付金）実績一覧

事業名	事業概要	事業経費（円）	事業経費内訳（円）	指標	指標値	実績値 (4年3月末時点)	実施内容	事業評価	今後の方針	
eスポーツを活用した地域活性化事業	スポーツツーリズムの一つとして、eスポーツチームの誘致、eスポーツ大会の開催等を通じて、西尾市に訪れるプレイヤーや愛好家、見学者を増やすとともに、誰もが参加できるユニバーサルスポーツでもあるeスポーツを活用して、外国にルーツのある子どもたちが参加できる活動の場を提供し、多文化共生を推進することを目指す。更に、脳の活性化が期待できる高齢者向けのプログラムを提供し、高齢者を中心に健康寿命の延伸や障がい者スポーツの推進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくり推進を目的とする。	11,440,000	企画及び実施計画の策定	2,200,000	eスポーツイベント・大会の参加者数	100人	1,003人	<p>【多文化交流プログラム】 外国にルーツを持つ生徒が多い一色高校定時制と連携し、多文化交流プログラムを実施。</p> <p>【健康プログラム】 シルバー人材センターと連携し、フレイル予防とデジタルデバインドの解消を目的としたプログラムを実施。</p> <p>【観光交流プログラム】 名古屋に拠点を置くプロチーム「名古屋OJA」を招聘し、観光資源のPR等を実施。</p> <p>【eスポーツイベント】 令和5年1月14日に市民を対象としたイベント「西尾市eスポーツ最強決定戦」を実施。</p>	<p>一色高校の多文化交流プログラムでは、普段の交流が少ない定時制と全日制の交流を図ることができ、コミュニケーションツールとしてのeスポーツの効果の高さを感じた。</p> <p>健康プログラムでは、高齢者にも馴染みのある運転ソフト等を使用し、eスポーツへの理解を深めることができたとともに、高齢者層への今後の展開の可能性を感じることができた。</p> <p>観光交流プログラムでは、西尾市としては初となるeスポーツチームとの連携によるテストマーケティングを実施することができ、佐久島や食文化等の観光資源とeスポーツの親和性の高さを実感した。</p> <p>eスポーツイベントにおいては、市内外からの関心度の高さを計ることができたが、集客力や求心力は、採用ソフトに左右されることが分かった。</p>	<p>初年度にあたる令和4年度は、eスポーツの素地構築を事業目的としており、市内向けのイベントやワークショップを主眼に置いて実施したが、令和5年度は、市外の団体・グループとの交流イベントを実施する予定。また、令和6年度については、国外からの誘客も期待できるビッグイベントの開催を予定しているため、スポーツツーリズムによる観光誘客を目的とした事業設計に取り組んでいく。</p>
			実証プログラムの実施	7,150,000	eスポーツ実施グループ・団体数	4団体	4団体			
			プログラム実施映像等の制作	2,090,000	eスポーツプログラム開催回数	10回	13回			
					eスポーツプログラムへの高齢者・障害者・外国人の参加者数	30人	32人			

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進交付金）実績一覧

事業名	事業概要	事業経費（円）	事業経費内訳（円）	指標	指標値	実績値 (4年3月末時点)	実施内容	事業評価	今後の方針						
スポーツを核とした健康まちづくり事業	① にしお健康ツーリズム事業 スギ薬局と連携し、企業等における健康診査などにおいて、健康上のリスクのある人（特定保健指導の対象者及び対象にならないがリスクの高い人）を対象に、市内の温泉や抹茶等の食の資源を活用した健康プログラムを企画開発する。また、企画開発したプログラムを組み込んだモニターツアーを実施し、プログラムの検証と改善を図るとともに、観光事業者と連携して健康ツーリズム商品として販売の拡大を目指すことを目的とする。	1,000,780円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">コンテンツ制作費</td> <td style="text-align: right;">546,000</td> </tr> <tr> <td>健康ツーリズム広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">361,780</td> </tr> <tr> <td>健康ツーリズム参加者助成費</td> <td style="text-align: right;">93,000</td> </tr> </table>	コンテンツ制作費	546,000	健康ツーリズム広告宣伝費	361,780	健康ツーリズム参加者助成費	93,000	健康ツーリズム参加者数	35人	31人	<p>民間企業と連携し生活習慣病予防を目的として、市内の温泉旅館にて健康体操や健康料理の提供など健康指導を行うプログラムを開発し、令和3年度モニターツアーを実施し、その際、行ったアンケートや健康経営を推奨する企業から収集した意見をもとにツアーコンテンツのブラッシュアップを図り、ツアー販売を実施した。ツアーの浸透を図り、健康経営企業に積極的に取り入れてもらうため、一部ツアー料金を補助して販売した。ツアーコンテンツは、吉良温泉の効能の説明・入浴や食事指導の他、市内の観光資源を活かし、豊かな自然の中を散策しながら好きな場所自ら抹茶を点てて飲む野点を取り入れ実施した。</p> <p>・健康ツーリズム事業補助 1,000,000円</p>	<p>民間企業であるスギ薬局と連携したツアーを計画したことにより、スギ薬局の持っている健康相談のノウハウや健康機器を活用することができた。また、吉良温泉と連携し、温泉特有の環境を活用することで入浴・食事や散策などから行動変容を促すプログラムをブラッシュアップさせ、「西尾らしさ」を取り入れた野立てを取り入れることができた。これにより、健康食でもある西尾の抹茶のPR、吉良温泉の散策、自ら抹茶を点てるという体験という効果を併せ持つプログラムを作成することができた。</p>	<p>造成したツアーが、健康経営に力を入れている企業が健康経営、福利厚生の一環として活用してもらえるツアーにするため、より一層のツアーの充実を図るとともに地元の企業にツアーの紹介を行う。エキスポ等に出展し、健康ツーリズムに関心を持つ企業に対して積極的なPRを行うとともに本市のツアーのニーズ調査を実施する。</p>
コンテンツ制作費	546,000														
健康ツーリズム広告宣伝費	361,780														
健康ツーリズム参加者助成費	93,000														

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進交付金）実績一覧

事業名	事業概要	事業経費（円）	事業経費内訳（円）	指標	指標値	実績値 (4年3月末時点)	実施内容	事業評価	今後の方針
スポーツを核とした健康まちづくり事業	<p>②フルマラソン大会等の開催による健康づくり事業</p> <p>生活習慣病のリスクが低い方に対して、運動習慣を身に付けてもらい生活習慣病を予防できるよう、ポピュレーションアプローチの一環として、また、本市が健康づくりのまちとしてPRしていくためのシンボリックイベントとしてフルマラソン大会を開催する。大会は市内外からの一般参加が可能で、かつ、県内では現時点で本市のみの開催となる男女同時参加の公道を使用したフルマラソン大会として開催する。開催は、民間団体と連携した実行委員会を設立し進めるとともに、大会の開催に合わせて、地元商工業団体と連携し、県内外から訪れる大会参加者に西尾市の地場産品等のPRを行い、市内消費の増加を図る。</p>	0円 38,500千円を令和5年度に繰越	無し	<p>市民マラソン参加者数</p> <p>市外からのマラソン参加者数</p>	1,100人 4,400人	0人 0人	未実施 (令和5年度に繰越)	<p>第1回大会（2021年度）において想定外の交通安全上の問題が多数発生したため、地元警察から、次回開催にあたってはコースを変更しよう申し入れがあった。新コース決定のためには警察との調整、新たな迂回路の設定、地元住民への説明・周知などに相当な時間が必要であること、ボランティアを含む参加者募集についても半年程度前には募集を開始する必要があることから、令和4年5月の実行委員会総会において開催の延期を決定した。2022年度に開催出来なかったため、事故繰越として2023年度に事業費及び交付金を繰り越すこととなった。</p> <p>また、信金中央金庫の地方創生推進スキーム「ふるさと応援団」に応募し、フルマラソン開催事業が地方創生の効果が高い事業と認められ、企業版ふるさと納税10,000千円を受領したため、交付金の事業期間を2年間延長するインセンティブを活用することができた。</p>	<p>コースを見直すにあたり、交通安全上の問題の解消、地元の要望（前回コースに組み入れなかった旧幡豆地区を組み入れる）などを考慮し、スタートとゴールを別の地点に設定することとなった。その結果、第1回大会以上に市内広域を走ることができる、より豊かな自然を感じることができるコースとなった。ゴール地点を市街地郊外に設定することで、市街地の交通渋滞を緩和し交通安全上の問題を解消するとともに、ゴール地点への移動に際し、利用促進活動を継続している名鉄西蒲線の利用を促し、利用者増加を図る。</p> <p>また、マラソンコース・交通規制など市民への周知をこれまで以上に徹底することで、マラソン大会の定着化を図り、市民の協力を得られるよう努め、市全体での機運を盛り上げ、参加者増加につなげていきたい。</p> <p>市外からの参加者増加を図るため、マラソン参加者のための宿泊プランの拡充や、参加者家族をターゲットとした観光メニューの開発などを関係団体（吉良温泉観光組合、西尾市観光協会等）とともに検討する。「にしおマラソンの出走権」をふるさと納税の返礼品とすることも検討していく。</p>

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備交付金）実績一覧

事業名	事業概要	事業経費（円）	事業経費内訳（円）	指標	指標値	実績値 (4年3月末時点)	実施内容	事業評価	今後の方針
スポーツを核とした健康まちづくり事業	<p>プロスポーツをはじめとした大規模大会を誘致できるよう西尾市総合体育館の観客席を増設し、大規模大会、広域大会等のイベント誘致を行い観戦者を増加させ、市外からの来訪人口を増やす。本施設は国道23号線（岡崎バイパス）のICから車で約2分の立地であることから、この開催に合わせて同バイパス沿いの道の駅「にしお岡ノ山」と連携し大会とのコラボイベント企画等を行うことで、道の駅にも来訪者を誘導することができ、特産品のPR及び消費喚起を促すことができる。このような観光資源を組み合わせたスポーツツーリズムを作り出すことで観光入込客数の増加や知名度の向上につなげる。</p> <p>また、トップレベルの大会を観戦することで市民のスポーツに対する関心を高め、スポーツ実施率の向上につなげ、体育館の利用率の向上と市民の健康寿命の延伸を図る。</p>	142,230,000	工事請負費 移動観覧席設置工事 105,600,000	国内トップレベルの大会開催数	0回	0回	移動観覧席床下補強工事 電気設備工事 北側固定式移動観覧席設置工事 (418席)	大規模大会を誘致できるよう西尾市総合体育館に移動式観覧席（708席）を設置した。	施設の利用者数を増加させるため、国内トップレベルの大規模大会を誘致に努めていきたい。
			備品購入費 移動観覧席製造 36,630,000	西尾市総合体育館の利用者数	0人	0人			
			計	142,230,000			南側移動式移動観覧席製造 (290席)		